

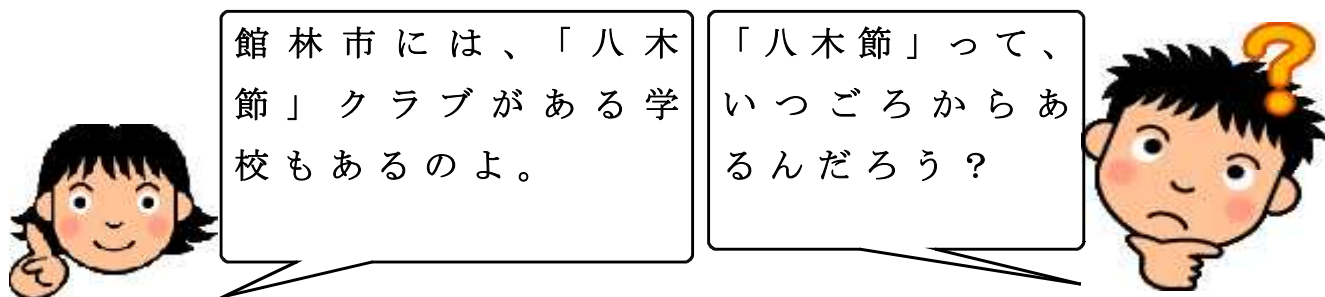
# 上州名物「八木節」について知ろう！

群馬県や栃木県では、大体どこの学校でも、運動会で八木節をおどります。老若男女、だれでも知っている八木節。でも、そこで元気におどっている君、



- ①八木節はどこで生まれたのか
- ②なぜ、たるをたたいているのか
- ③なぜ、場所によって歌がちがうのか

知っていますか?! 知らない人は、〇〇ちゃんに「ぼーっとして生きてんじゃねえーよ。」としかられてしまうので、ここでバッチリ勉強しておきましょう。



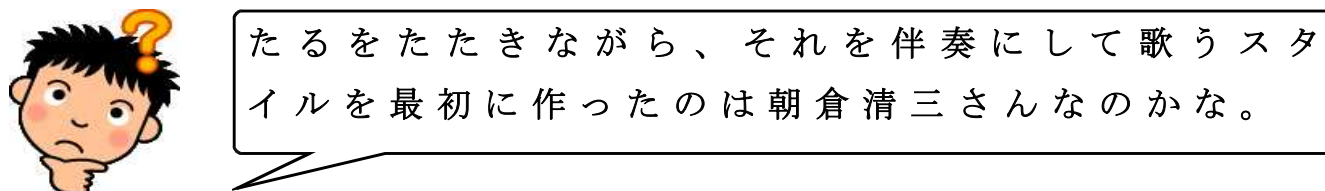
## 1.八木節はいつ、どのようにして生まれたのでしょうか？

八木節がどこで生まれたのかについては、いろいろな説があります。ですから、ここで書くことも、一つの説です。

### 【第一話 八木節のルーツ】

八木節のもとになったのは、江戸時代の終わりころ、越後国(今の新潟県)から、上野国(今の群馬県)木崎宿や、下野国(今の栃木県)八木宿に来て仕事をしていた女性が、ふる里をなつかしんで歌っていた歌です。この歌を、木崎や八木のまちを行き来していた馬方(今でいえばトラック運転手)が聞き、まねをして歌うようになりました。

明治時代になると、その中の一人、朝倉清三あさくらせいぞうという人が、馬のひずめのリズムを伴奏ばんそうにして、この歌を盆おどりの歌として歌い始めました。この人の美声と歯切れのよいリズムとテンポにより、木崎や八木のまちの人々の間でとても人気が出ました。



## 【第二話 八木節誕生!】

さて、朝倉清三の弟子の中に、堀込源太(栃木県足利市出身)と矢場勝(群馬県山田郡出身)、喜楽家という人がいました。堀込源太はイケメンのボーカルとして歌を担当しました。矢場勝はそれまでたるを中心に笛と鉦で演奏していたのに加え、鼓と三味線を加え音楽性を高めました。喜楽家は、それまで花笠でおどっていたのに加え、日がさ・扇子・すげがさを使った振付師を担当しました。そして、大正3(1914)年にはレコードになり大ヒット。その際、この歌の曲名を3人が活動していた場所の地名をとって「八木節」が誕生しました。その後、ラジオでも放送され、日本全国に紹介されました。おかげで、「安来節」「佐渡おけさ」とならぶ日本の三大民謡の一つとして、今でも多くの人々に親しまれています。



つまり、八木節は、群馬県民と栃木県民とが協力して作ったものなのね。

## 2、なぜたるをたたくの？

「八木節宗家のページ」 [http://www.geocities.jp/yagibushi\\_soke/index.html](http://www.geocities.jp/yagibushi_soke/index.html) によると、

堀米源太は荷馬車をひいてあちこちに荷物を運ぶ人でした。それが、八木節の楽器と大きな関係があるのです。

①樽【たる】 …もとは馬のえさを入れるバケツのような物

②鼓【つづみ】 …馬のひづめの音を表現

③鉦【かね】 …馬のたづなについていた鈴の音を表現

それらに笛、踊りが振付けられて八木節が完成した。

**おまけ** 歌詞の中に「オーイーサネー」という言葉があるけど、その意味は…

源太さんのかわいがっていた馬の名は『青』と言いました。それを元気づけるために、『青，いさめー!』と言ったのが変化した言葉。

『アオー，イサメー』→『アオー，イサネー』となったのです。

笛を中心とした楽隊の演奏に合わせて歌うというスタイルをとらない八木節って、おもしろいね。

### 3、八木節の歌詞は場所によってちがう？

八木節の歌詞は、他の地方のおどりの歌とちがって、歌詞が何通りもあります。それもそのはず、歌詞は7・7調で作れば、だれでも好きに作ってよいのです。だから、無限に作れます。タイプとしては、

①歴史上の有名人の物語                      ②地方の観光名所や名物の紹介

①のタイプは大体決まっているようですが、②のタイプだとかなりの数ありそうです。

### 4、そんな八木節がピンチ！そこで…

八木節は、現在でも、多くの学校や地域のお祭りでおどられています。

しかし、お祭りそのものが減ってきてしまっていることや、地域の八木節保存会の会員のげん少と高れい化によって、八木節という伝とう文化を未来に残していくことがむずかしくなってきました。伝とう文化を守ることは、自分の住んでいる地域のじまんを守ることであり、地域の人たちのきずなを強めることにつながります。どのようにすれば守っていけるのでしょうか。ここでは、桐生市の取り組みをしょうかいしましょう。

桐生市では、毎年8月、「桐生八木節祭り」を3日間続けて行っています。2019年は56回目となりました。今年は大人の部で85名、子どもの部でも8だん体が参加し、そのわぎをきそい合いました。また、わかい人たちにも八木節を楽しんでもらうため北海道の「YOSAKOI ソーラン祭り」をヒントに、「ダンス八木節」大会も行うようになりました。2019年は29チームが参加しました。

このように桐生市では、市全体で八木節を広めようと努力しています。



【ダンス八木節の様子】



【全日本八木節競えん大会の様子】

参考資料:桐生市ホームページ <http://www.city.kiryu.lg.jp/kankou/1010571/yagibushi/index.html>

足利市教育研究所 <http://kyouiku.ashi-s.ed.jp/senjin/index.html>

教育芸術社 <https://www.kyogei.co.jp/shirabe/kyoudo/text11.html>

関ヶ谷八木節研究室 <https://sekigayaclub.jimdofree.com/>

